

生物多様性の保全・回復

方針・目標

- 当社では、「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に参画し、また、電気事業連合会「電気事業における生物多様性行動指針」の主旨を踏まえ、「地域との共生」をマテリアリティの1つとして特定しており、地域環境の保全に取り組んでいます。
- J-POWERグループ環境目標に「生物多様性の保全・回復」を掲げています。
- 環境影響評価の適切な実施や地域の特性を踏まえた環境保全措置などによる地域レベルでの取り組みにより、希少動植物及び生息、生育地の保全・回復など、生物多様性の保全・回復に取り組めます。また、教育や保全活動を通じた生物多様性の保全・回復に向けた意識の向上、社有林の保全、森林内の未利用残材の利用の推進に取り組めます。

ガバナンス (取締役会の責任)

J-POWERグループではESG総括（社長）を責任者とした「サステナビリティ推進会議」を年3回以上開催しています。ここでは、生物多様性の保全・回復を含む自然資本に関して、J-POWERグループ環境方針等に基づき、目標、取り組み実績の情報共有を行うとともに、施策の企画・検討、リスクの特定、評価、管理などを審議しています。このうち重要事項は取締役会、常務会に提案／報告され、取締役会はその進捗状況を監督しています。

※詳細は統合報告書p.22をご参照ください。

戦略 生態系、生物多様性リスクの評価

当社では、連結子会社の発電拠点ごとに、BRFを用いて生態系リスクを特定しています。その結果、国内外の4拠点が生態系の完全性が低く、「脆弱性が高い地域」に位置していることを確認しました。

同様に、IBATを用いて発電拠点周辺の保護地域の有無から生物多様性リスクを特定しています。

生物多様性の保全・回復

戦略 生態系、生物多様性のリスクの管理・取り組み

- 生態系に配慮した環境アセスメントに基づき、生態系サービスの維持に取り組んでいます。
- 積極的な地域共生活動を通じて、地域社会との信頼関係の構築、地域活性化への貢献に取り組めます。
- 水力発電所周辺の社有林の保全、林地残材等をバイオマス燃料へ加工（火力発電所で燃焼）し、森林保全とCO₂排出低減へ貢献しています。

生物多様性に関するリスク評価と対応

環境アセスメントでは、地域や事業の特性に応じて、事業の着手前に環境の状況を調査し、事業による環境への影響を予測および評価しています。その結果に基づき適正な環境保全措置を実施して、周辺への環境影響を最小限に抑えています。運転開始後も環境保全協定等に基づいてモニタリングを行い、その結果を公表しています。



写真：動物調査（昆虫類調査）



写真：植物調査（植物相調査）

希少野生動植物の保護活動と自然保護啓発への取り組み

沼原発電所（栃木県）の調整池は、沼ッ原湿原に隣接しています。当所では、周辺に生息する植物を保護するため、那須塩原市が実施するシカ食害対策（防鹿ネット設置）に協力し、ニッコウキスゲ他植生保全に努めています。

また、市が主催する年1回の「沼ッ原湿原自然観察会」では、観察会の参加者に向け、調整池や湿原内の環境保全、および希少な動植物の保護について解説を行っています。これらの活動を通じ、生物多様性について考える機会の提供に貢献しています。



写真：ニッコウキスゲ



写真：自然観察会の様子